

□ 岐阜大学公開講座 「阪神大震災に学ぶ」

6月1日、岐阜大学工学部106号教室において、岐阜大学の主催により「阪神大震災に学ぶ—地震にしたたかな街づくりをめざして—」と題した岐阜大学公開講座が開催された。岐阜大学の公開講座は、大学における研究教育活動の成果を広く一般に公開することを目的として、工学部の学科ごとにひとつの統一テーマを取り上げ、講演を行うものである。今回は土木工学科が担当となり、土木学会中部支部、岐阜県、岐阜市の後援のもとに、現在最も社会的関心を集めている話題のひとつである阪神大震災をテーマとして開催された。土木工学科の教官は、被害と復旧の状況（森杉）、被害体験記（宇野）、地盤振動特性（杉戸）、液状化（八嶋）、河川被害（藤田（裕））、港湾被害（安田）、鋼構造およびコンクリート構造物の耐震性能（奈良、六郷）なる講座を担当した。また、教養部の金折祐司教授に地学を専門とする立場から、岐阜県庁地震対策企画監の小野崎弘樹氏に地元行政の立場からそれぞれ講義があった。

参加者は土木工学の実務家を中心に約100名。すべての講義の後には、清水宏岐阜大学工学部長より受講者の一人一人に修了証書が授与され、実



りある熱心な討議が行えたことの充実感に包まれながら閉講した。

当初予定していた受講者数を大幅に越えたこともあって、用意した講演資料が不足し、講座の修了した後も資料を求める声が少なくない。また、震災に大きな関心を寄せている本学の学生をはじめとする多くの希望者には聴講の機会を用意できなかったこともあり、資料の増刷を進めるとともに、来る7月10日と11日の両日には、全学の学生をはじめ他大学の学生および一般社会人を対象とした岐阜大学土木工学科公開セミナーを再度開催し、震災教育に貢献すべく計画しているところである。

（岐阜大学教授 工学部土木工学科 森杉 壽芳）

INFORMATION

メコン川下流域4カ国が、メコン開発協力協定に正式調印

カンボジア、ラオス、タイ、ベトナムのメコン川下流域4カ国は、4月5日にタイ北部のラオス・ミャンマーとの国境に近いチェンライ市において、メコン川流域の持続可能な開発のための協力協定（Agreement on the Cooperation for the Sustainable Development of the Mekong River Basin）に正式調印した。

調印式はタイの科学技術環境省の主催により、下流域4カ国代表に加えて将来の参加が期待され



調印式終了後のひとこま

ている中国・ミャンマーの在タイ外交団、各国の在タイ外交団、国際機関等約300名が参加して、チェンライ市を流れるメコン川の支流のcock川の中洲に位置するホテルで開催され、タイのチュ